



祐介の目

No.114

大田祐介 (福山市議会議員)

マイナンバーを活用して接種歴を一括管理する仕組み作りを担当するのが地元選出の小林史明ワクチン担当大臣補佐官だ。彼は以前にマイナンバーを所管する総務大臣政務官の経験もあり、自治体の負担と

ワクチン接種開始

我が国においてもワクチンの接種が始まったが、福山市においても今後の大まかなスケジュールが示されている。過去に経験のない大規模接種に向けて国・県・市それぞれが連携し、福山市民が安心して早期に接種できるよう取り組まなければならない。

そのためには接種券の発送と併せて副反応の発生や対応について十分な説明が必要だ。とりわけ日本人にはワクチンを危険視する方が多く、副反応に対する十分なリスクコミュニケーションが必要と感ずる。また、接種記録の管理にマイナンバーが活用される予定だが、現在、予防接種法に基づく予防接種の実施は、各自治体が担い、接種記録の管理も各自治体が担当している。ただ、その台帳は自治体独自であり入力項目などもバラバラだった。

こうした現状に対して国が

ならないような接種記録システムを構築している。これにより迅速な接種記録の確認、再発行、オンラインによる確認などが可能となる。またワクチンの効果の追跡調査も可能となり、マイナンバー等の活用によるデジタル技術を最大限発揮した大規模接種に成功すれば、デジタル後進国と言われている我が国の汚名返上にも繋がるだろう。これらの国のお膳立てを各自治体がかたく活用できるかどうかも大きな課題だ。

福山市としても冷凍庫の確保、接種医療機関との契約、集団接種会場の準備、ワクチンの輸送体制、接種する医療従事者の確保、医師会との連携、個人情報保護の問題等、様々な課題がある。マイナンバーを活用する以上、昨年の定額給付金のオンライン申請時のような混乱を繰り返してはならない。今回のワクチン接種が各自治体においてもデジタル化を促進する契機と考えるべきだろう。